



みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

スポーツ少年団
中野スプラッシュ

皆さんに支えられ
バレーボールを続けています

「復活は難しいなあと思っていたけど、子どもたちが『またバレーをしたい』と大人を動かしてくれましたね」と語るのは、創部九年の中野スプラッシュ総監督、篠澤俊さん（写真中段左から五番目）。震災でできなくなった中野小学校での練習は、保護者の協力で場所が確保され、数カ月後に再開できました。練習再開初日、震災で行方不明になっていた小野寺前監督の発見を知り、悲しみを分かち合ったメンバーは、天国で見守る監督のために改めてバレーボールに向き合う決意をしました。

チームは中野小学校を中心とした高砂地区の小学生男女で構成。メンバーはつらい震災体験を乗り越えて元気にプレイできることに感謝し、練習に精を出しています。その練習をOBが手伝ったり、試合観戦にOBの親が顔を出すなど、活動はチームに関わる方々の交流の場になっています。

女子の監督、鈴木かおりさん（写真中段右から二番目）は「人数は欲しいけど、少ないからこそ上の子が下の子の面倒を見てくれる」と話し、篠澤総監督は「大人になって社会に恩返しできる子たちに育って欲しい」と期待を寄せていました。

2013
6月

待ちに待った

岡田の 田植え



さあ、仙台の米どころの稲作が復活します！
除塩作業の済んだ、地質や排水に問題がない一部の田んぼしか作付けはできませんが、農家の誇りをもって一からの出直しに臨む皆さんの様子をお届けします。

岡田地区の中でも南蒲生、堀切、新浜地域の農家は機械などが流失したため、自力での稲作再開は困難でした。そこで、農家で構成する「岡田生産組合」主体で「仙台市被災地域農業復興総合支援事業」を活用し、今春からビニールハウスや大型機械を借り受けて、集落営農に乗り出しました。今秋全ての除塩作業が終わると、来年は震災前と同規模の作付けに着手が予定されるため、今年は見据えた営農の第一歩となります。

南蒲生

「岡田生産組合南蒲生」は、実行組合長の阿部英記さん、作業班長の遠藤林治さんを中心に個人営農経験豊富な八人が協力し合い、稲刈りまで進めていきます。「今年は土台づくりつしゃね、来年のための」と阿部組合長が話すように、作付け面積は約八町歩。現在除塩作業中の県道塩釜亘理線東側の田んぼの作付けができるようになると、今年の約十倍にあたる約七十町歩を手掛けることになり、約二倍の構成員数が必要となります。そのため「若い人が職業として携われるように、その仕組みづくりもしていかなければいけない」と、皆さんは声を揃えます。

今年南蒲生が作付けする水稲品種は全て「ひとめぼれ」で、その二部は「環境保全米」。また、将来的に作付け規模が増えた時の作業効率を考えて、一部にラジコンヘリと機械を利用するの直播^{ちよくば}を試みます。
*代かきをした水田に直接種をまく栽培方法

新浜

「岡田生産組合新浜作業班」と共に新浜の農業を担う「農業法人新浜協業組合」の平山尚組合長が、若手農家の育成を主導しながら、地域の皆さんと新たな一歩を踏み出しました。

今年作付けできるのは十町歩。「できれば、今年七十町歩作付けしたかった。新浜は稲作で暮らしてきた農村だから、皆、稲を見ると心が和むのさ。仮設住宅にいる人も新浜に来て稲を見たら、心を落ち着かせて前さ進む勢いがつくんでないかと思って」と、平山組合長。三年ぶりに稲作ができる喜びを感じつつ、田園風景が地域住民の心をつなぐ力になることを願っています。作付け品種は、量販店に好まれるという「まなむすめ」です。

堀切

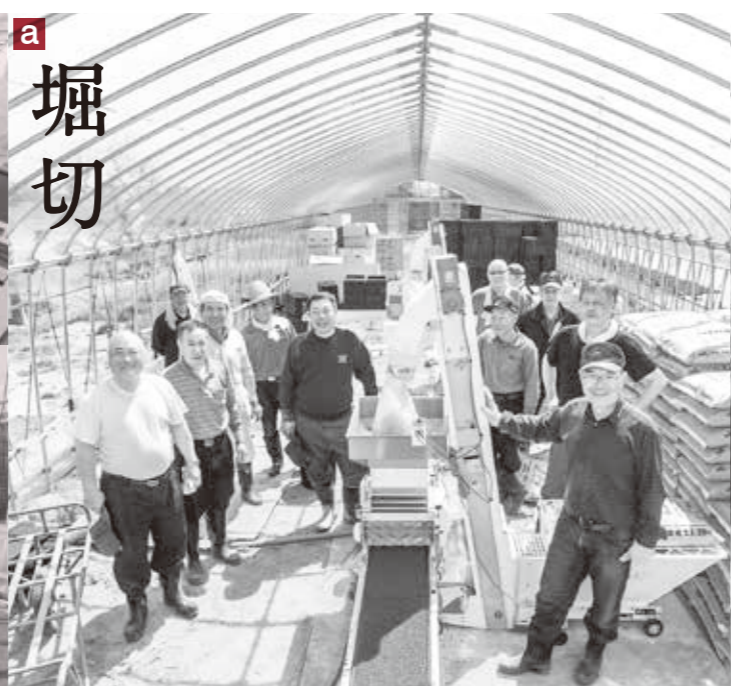
「全ての工程が試しながらの作業。最初が肝心だがらな」。堀切実行組合長の菅井昭^{あき}さんは、嶺岸富夫副組合長と初めての集落営農の舵取りを務めます。構成員十二名の約半数が勤め人で経験が少ないため、営農再開となった今回を機に、全作業を覚えてもらおうと慌ただしく作業が進みます。堀切の作付け面積は七町歩八反で、品種は「まなむすめ」。来年度は二十町歩手がける予定です。「去年は品種関係なく優良年と聞く。今年も良い米が取ればいいのだが。でもいいんだ、皆して平均に収穫できれば」と菅井組合長。「皆で協力し合ってやっていくしかないんだ、これからの農家というの」と、地域全体で後継者問題に取り組みます。



a (前列左から)平山尚さん、平山長蔵さん、菊地誠二さん、平山富子さん、(後列左から)平山英弘さん、平山尋昭さん、平山造子さん、小野純一さん(下岡田から助っ人に来ました)
b 新浜は育苗器を使用しました c 全ての作業が試行錯誤です d パイプラインによる用水が整備されています e 将来を担う30代、40代の若手農家

a (左から)菅井昭一さん、秋葉好美さん、遠藤克己さん、桜井善一さん、秋葉茂さん、鈴木省三郎さん (機械右手前から)嶺岸富夫さん、菅井保広さん、佐藤初雄さん、鈴木秋夫さん、嶺岸正寿さん、秋葉昭二さん b 黙々と作業する秋葉昭二さん c 種まき作業機械 d 一輪車で運搬は若手の仕事 e 整然と並ぶ育苗トレイ

a (左から)阿部英記さん、庄司春一さん、山田正二さん、庄司長男さん、二瓶透さん、芳賀光夫さん、遠藤林治さん、児玉正信さん b 早くも役割分担は完璧です c 専能寺を背景に代かき作業 d 全てが真新しいので作業前には塩と清酒、水でお清め e ラジコンヘリによる直播作業



みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

●13日(土) 中野スパローズ創立40周年記念野球大会 (キリンビール工場ほか4会場)



今年創立40周年を迎える少年野球チーム「中野スパローズ」。震災前は地元で「日中和杯」を主催し、今年はキリンビール工場グラウンドなどを借りて記念大会を開催しました。今大会には「岡田小クラブ」など、30チームが参加。開催にあたっては、普段から父母同士の交流が盛んな「中野スパローズ父母の会」の皆さんが定期的な会合を重ね、準備を進めてきました。当日は第40代主将の佐藤真光さんによる力強い選手宣誓に、場内からは大きな拍手が送られ試合がスタート。歓声が響きました。

●13日(土)、14日(日)、28日(日) 各地の神社で例大祭 (高砂神社、神明社、吉窪神社)

高砂神社では小野宮司により例祭祝詞が読まれ、その後の直会なおらいで氏子の小野正壽さんが、持参したお手製の漬物を参列者に振る舞い懇談しました。伊勢神宮の分家である南蒲生・井戸谷地の神明社例大祭(写真)では、4代にわたって氏子総代を務める遠藤喜一さんが「ボランティアの力があつたからこそ、桜の樹が植えられてここまできれいに整えられた。今

後、人が集まる場所になると良いね」と期待を膨らませていました。

新浜の吉窪神社では、たくさんの杉や桜などが植樹された後、例大祭が行われました。



●5月11日(土) 歩いて運動不足解消! (宮城野区中央市民センター)

真新しい体育館に約70名の参加者が集まった。支えあいセンター主催のウォーキング教室。開始早々のアトラクションで宮城学院大学の学生がよさこい踊りを披露し、参加者の皆さんと一緒に踊る一幕もありました。すっかり体があたたまった皆さん、いよいよこの日のメインであるウォーキングに挑戦です。体の重心の位置を定め歩き方を確認した後は、広



い体育館をめいっぱい使ってウォーキングスタート。腕を振って地面を蹴って、伸び伸びと体を動かすひとときを楽しんでいました。

わたしの近況報告

第13回 このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅などにお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



武内さんご一家(中野・西原)
(左から)利子さん、信宜さん

再会できた喜び

西原で長男・誠さん、長女・しのぶさん、そして利子さんの甥2人が下宿し、6人でにぎやかに暮らしていた武内さん一家。運送会社勤務の信宜さんは、荷物搬送先の埼玉県久喜市で被災。地震直後は利子さ

んとお互いの無事を電話で確認できたものの、大津波襲来以降は全く連絡が取れないまま。自宅で津波被害に遭った利子さん、しのぶさん、甥が避難していた中野栄小学校で家族全員が再会できたのは、震災4日後の3月15日でした。

やっと気持ちの余裕を取り戻し

中野栄小学校での避難生活、福田町の親せき「経王寺」にお世話になった後、2011年4月10日から中野栄の借り上げ民間賃貸住宅に6人で暮らしていましたが、しのぶさんが嫁ぎ、受験勉強を続けていた甥は群馬県の大学へ入学したため、現在は4人暮らし。

信宜さんの勤務先は、岩沼市で津波被害に遭い、現在は名取市に仮事務所を構

えています。流失を免れたトラックを使い、シフト制を組んでいるため、勤務時間は一層変則的になりました。一方、「蒲生での行事が本当に懐かしい」と語る利子さんにとって、西原町内の先輩方と一緒に2011年10月から携わる『西原新聞』の制作は、楽しみであり励みにもなっています。そんな夫妻が将来の移転先として希望しているのは田子西隣接地区。「造成が済んで落ち着けるのはまだまだ先分です」と信宜さん。

5月初旬、信宜さんと利子さんは震災時に自分たちを案じて、岩手・宮城県内の遠方からさまざまな支援をくださった知人らへお礼の挨拶に出かけました。「やっとそういうことができるようになりました」。尊い交流の輪が続いています。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生えんの会

地域の環境改善と緑の創出を主な目的に掲げ、若い世代主体で活動しています。

五月十二日(日)まち歩きワークショップ

内容

- 地域の現状把握を目的としたまち歩きワークショップと、まち歩きのおさらい

当日の様子

集まった十数名が、震災以前の町内の風景写真を見ながら現状の把握をしました。危険箇所の確認や今後の土地利用について感想を述べ合ったり、幼少の頃の懐かしい思い出話を交えながら、幼少の頃の懐かしい思い出話を交えながら、咲かせながらのまち歩きとなりました。ワークショップでは、公会堂跡地の活用法や、自生する菜の花やヒナゲシの花が見事だったことから、町おこしへの期待の声がかげられました。今後の活動の取り掛かりとして清掃活動が上げられ、地域を区切って定期的に少しずつ進めていくことでまとまりました。



問い合わせ先
代表 二瓶透 090-7079-5371
定例会議
毎月第4土曜日19:00~
岡田会館

中野小学校区復興対策委員会

中野地区四町内会、港、蒲生、西原、和田が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

五月五日(日)定例会議

内容

- 復興事業局から配布資料をもとに説明と報告
●委員から復興事業局へ質疑応答

当日の様子

教育局から四月七日に開催した「中野小学校校舎等お別れ会」の報告、住民への感謝、学校のあり方について今後も保護者と話し合いを重ねる意向が述べられました。復興事業局から「田子西地区の宅地申込受付」「復興公営住宅への入居意向調査結果の速報値」について資料をもとに報告がなされ、各委員から多数質問がありました。また前月、委員会から改めて要望された「医療費免除継続」などについて、復興事業局から経過と現状の報告があり、質疑応答が続きました。



問い合わせ先
委員長 高橋實 022-258-3068
定例会議
毎月第1、第3日曜日16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

※記載している内容は、各開催日現在の情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

読者から
ひとこと

●七ヶ浜から西原へ越して十年暮らしました。当時小学生だった孫のことを考え、学校に近いプレハブ仮設住宅を選んで今は四人で住んでいます。ここは蒲生の人が多いから、初めて知り合った人がほとんど。失ったものは多いけど新たな交流が生まれて、それが支えになっています。
齋藤カヨ子さん

●蒲生で魚屋をしたから、誰とでも仲良く出来るの。貞山堀に塩釜までの水上バスが通っていた頃は、にぎやかだったね。海や蔵王が見える蒲生に帰りたい。夏は風がそよそよと涼しいの。
平山みつ子さん

●住まいは福田町に移ったけど、日中は蒲生の自宅跡地に来てるね。海で育ったからやっぱり海のそばが落ち着くんだった。色んな人が見学に来るから、津波体験を伝えているんだ。
渡辺市雄さん

●「えんの会」で南蒲生まち歩きをして、一番なんとかしなきやいけなと思ったのは山積みになった鉄骨のスクラップ。子どもたちはあいう場所好きでしょ、危ないからね。それを片付けるなりして、清掃活動とかに繋がっていければいいね。
高橋克己さん

続ける 支援

NPO法人NALC宮城 けやきの会の「パラソル喫茶」

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々があります。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「あなたと腕を組むなんて何年ぶりかしら」「恥ずかしいなあ……。でも、たまにはいいか」。宮城野区中野にある仙台港背後地六号公園仮設住宅で四月末に開かれたお茶会「パラソル喫茶」でのひとコマです。着なくなった着物を再利用した「シニアエコファッションショー」に出演したペアラルック姿のシニア世代のご夫婦が、照れた様子で言葉を交わしていました。

NPO法人「NALC宮城 けやきの会」が毎月開催しているパラソル喫茶は、毎回アットホームな雰囲気、に包まれています。この日は、ファッションショーのほかビンゴ大会や手話交じりの歌の披露や尺八の演奏など内容多彩で、集まった約五十人の参加者が楽しんでいました。パラソル喫茶は二〇一一年七月から、仙台市内を中心に七カ所の仮設

住宅で、計七十回以上開かれてきました。晴れた日にはパラソルの下で、雨の日は室内で、コーヒーやお茶、お菓子が振る舞われます。悲しみや悩みなどを抱えた参加者の声に耳を傾ける傾聴活動が当初の目的でしたが、回を重ねるにつれ、歌や踊りなど娯楽的要素が多く盛り込まれるようになってきました。



ファッションショーに出演したふたり、ペアラルックが良く似合っています

「パラソル喫茶を始めたころは、一緒に泣くだけしかできませんでした。けやきの会の女川由美子さんはそう振り返ります。支援する側とされる側。互いに見ず知らずの間柄ゆえ、心を通わずすまではそれなり

の時間が必要でした。パラソル喫茶を始めて半年が過ぎ、参加者がぼつりぼつりと身の上話をしてくれるようになりました。

けやきの会メンバーの平均年齢は六十五歳を超えています。パラソル喫茶に集まる参加者たちと同世代であることが、スムーズに活動を継続している理由のひとつでもあるようです。「震災後、初めて悩みを打ち明けられたのは私たちに対してだった、と言ってくれる参加者も少なく



会場では「盆踊り」や「ふるさと」など、懐かしさを覚える曲が演奏されていました

ないです。近い年齢同士だからこそ、安心してしゃべってもらえるのではないかと思います」とけ

やきの会代表の林さん。

悩みもあります。「最近では、参加者が固定化してきています。来てくれる人は必ず来てくれるし、来てくれない人はなかなか来てくれない」。そう話すパラソル喫茶の担当者佐藤美喜さんは、「もっと多くの人に顔を出してもらいたいです。借り上げ民間賃貸住宅に住んでいる人も、気軽にお茶とお菓子を楽しみましょう」と呼び掛けています。

パラソル喫茶 6月開催日程

申込不要、参加無料

- 6月12日(水) 宮城野区/岡田西町公園仮設住宅
 - 6月13日(木) 若林区/日辺グラウンド仮設住宅
 - 6月26日(水) 宮城野区/仙台港背後地6号公園仮設住宅
 - 6月27日(木) 若林区/荒井小学校用地仮設住宅
- 問/特定非営利活動法人ニッポン・アクティブ ライフ・クラブ(NALC)宮城 けやきの会
022-379-9718
http://nalc-miyagi.jimdo.com/

取材：大高志織@東北大学
情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。
「同年代だからこそ出来る支援を」http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/ より(地域SNS「ふらっと」ブログ)

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

被災された方のコミュニティ形成活動を支援します

仙台市では、東日本大震災で被災された方のコミュニティ形成に向けた取り組みに対して支援する「被災者交流活動助成事業」を行っています。

対象団体 応急仮設住宅などに入居する東日本大震災で被災された方が属する町内会や、被災された方が中心となって構成された団体など

対象事業 次のいずれかに該当する事業

- ① コミュニティ形成・活性化に資するまつりやイベント
- ② 自主的な勉強会、講演会
- ③ 生きがいづくりへの支援 など

助成回数と助成金額 助成回数は、1事業につき1回、1団体につき3回が限度

助成金額は、1事業あたり10万円が限度

※一部助成対象外経費あり

助成期間 平成25年4月～平成26年3月

応募方法 申込書、役員名簿、団体の目的や活動内容がわかる資料を提出してください。受付期間などについては、下記窓口までお問い合わせください

応募窓口・問い合わせ 022-291-2111(内線6138)宮城野区まちづくり推進課

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

対象 どなたでも参加できます

時・所 各仮設住宅集会所

- ▼ 高砂1丁目公園 6月28日(金)10:00～7月3日(水)10:00～
- ▼ 鶴巻1丁目東公園 7月2日(火)13:00～
- ▼ 福田町南1丁目公園 6月17日(月)10:00～7月1日(月)10:00～
- ▼ 岡田西町公園 6月11日(火)13:30～6月27日(木)10:00～
- ▼ 港南西公園 7月5日(金)10:00～
- ▼ 仙台港背後地6号公園 6月19日(水)10:00～
- ▼ 扇町1丁目公園 6月21日(金)13:30～
- ▼ 扇町4丁目公園 6月12日(水)10:00～

問 022-291-2111(内線6782、6784)宮城野区家庭健康課健康増進係

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
ほのほの中央サロン	太白区のみなし仮設にお住まいの方	6月15日(土)	10:00～12:00	太白区中央市民センター	皆で活性化! 脳トレしましょう!	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
仙台市中央サロン	仙台市中央市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	6月15日(土)	10:00～12:00	仙台市中央市民センター	おしゃれなフォトフレームづくり	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
いくねおちゃっこの会	六郷地区にお住まいだった方、現在も居住している方	6月18日(火)	10:00～12:00	六郷市民センター	六郷地区の歴史を語る	要(返信はがき)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
体を動かそう(健康体操)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	6月19日(水)	10:00～12:00	黒松市民センター	八乙女地域包括支援センターの方と一緒に健康体操	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
音楽の力で元気になる!! 旭ヶ丘みんなのコンサート	旭ヶ丘市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	6月27日(木)	13:00～15:00	旭ヶ丘市民センター	復興支援コンサート	要(招待券を持参ください)	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

仙台市総合防災訓練を実施します

東部地域にお住まいの方は津波避難訓練参加にご協力願います。

対象 「津波からの避難の手引き」(暫定版第2版)の津波避難エリア

内にお住まいの方

時 6月12日(水)9:00～11:30

内容 9:03頃に大津波警報が発表され、仙台港へ10:00に4mの津波が到達する想定で訓練を実施します。屋外拡声装置や「緊急速報メール」、コミュニティラジオ等による広報を確認した後、市政だより5月号と一緒に配布した「津波からの避難の手引き」(暫定版第2版)を参考に津波避難エリア外や指定避難所等へ避難する訓練です。

問 022-214-3109仙台市消防局減災推進課

022-291-2111宮城野区区民生活課

ミニ復興祭を開催します

仙台港背後地6号公園仮設住宅自治会が主催する催しです。

対象 仙台港背後地6号公園仮設住宅と周辺の借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

時 6月9日(日)11:00～15:00

場所 仙台港背後地6号公園仮設住宅

内容 歌謡ショー、健康体操、牛タン焼振る舞いなど

参加費 500円

問 090-7935-8557(佐藤修一)

蒲生町内会のお茶会が開かれます

蒲生町内会では、昨年開催し多くの方々を楽しんだお茶会「お茶、飲まねすか!」を今年も開催します。申込不要、参加無料。

対象 震災前に蒲生町内に住まれていた方

時 6月23日(日)11:00～15:00

場所 しらとり幼稚園(宮城野区白鳥2-11-24)

内容 落語、キーボード演奏、おしゃべりタイム

※お茶や菓子、おにぎりなどを用意します

※駐車場が限られていますので、乗り合いにご協力ください

内容 022-259-1588・080-1830-0951(片桐勝二)

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士
柏崎 潤

最近の健康ブームにおいてお酢は注目される食品の一つですね。血液をきれいにサラサラにする、やせる働きを高め肌の老化を防ぐ、消化を促進し便秘を改善するなどがお酢の効果とされています。

お酢は料理の文化において塩とともに大切で、旧約聖書にも登場するくらいルーツは古いのです。ルーツはヨーロッパ。「お酒」をつくっている過程でどういう訳かできてしまったとのこと。日本には四世紀の末頃、お酒をつくる技術と一緒に中国から入ってきました。

お酢と言えば、虫菌はないのに冷たいものが見る、という患者さんが来しました。よくよくお話を聞きましたら、体の健康のために毎日夜寝る前にお酢をコップ一杯飲んでいとのこと。歯の表面のエナメル質がお酢の酸で傷ついて、虫菌じゃないのにしみるようになってしまったのです。毎日飲むのはさけて飲む時は食事の前に行きましょうとアドバイスをしましたら、しみるのはだいぶ楽になったとのことでした。

お酢を飲むのは体にはとてもいいのですが、お口にはちょっと注意が必要ですね。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

柏崎 潤(かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯学教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1			2		3	4
		5			6	
7				8		
		9				10
	11			12		
13			14			
15					16	

タテのカギ

- ①仙台じゃ豆が代表格。ずんだに使われる作物
- ②独特の香味がある葉で仙台味噌などを包んだ、〇〇巻き
- ③何でも好きなものが出るといわれる、打ち出の〇〇〇
- ④お茶〇〇とは、お茶を飲むのに合う食べ物。仙台駄菓子や長なす漬けもこれにあたるでしょう
- ⑤面目が立たず、散々なこと。「大の男が〇〇〇〇だ」などと言います
- ⑧「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」の一環で、6月16日、22日に、「むすび丸しゃもじ 〇〇〇〇卓球大会」が鳴子や松島などで開催されます
- ⑩仙台市の資福寺、美里町の山神社などで、初夏を彩る花
- ⑪神様をまつる小さいおやしる
- ⑬木の枝を生やす太い部分
- ⑭美里町の町花。6月30日には〇〇フェスティバルが開催されます

ヨコのカギ

- ①旅のお供に海の幸や山の幸を。仙台〇〇は〇〇弁の宝庫
- ②広いホールでワルツにタンゴ、〇〇〇〇ダンス
- ⑤「過密」の反対語
- ⑥春からの「伊達美味(だてうま)」キャンペーンにもメニュー入り。宮城県産のお米と、醤油などのたれに漬けた白身の地魚を主とした新定番のグルメ、仙台〇〇弁
- ⑦大相撲の立ち会いで行司が発する、「〇〇〇なし!」
- ⑧落語で「下げ」ともいわれる終わりの部分
- ⑨金の純度などが極めて高いことを示すフォー〇〇〇とは、99.99%のこと
- ⑩気仙沼の美味。サメの心臓をいただく、モウカの〇〇
- ⑫リンカーンいわく。「人民の人民による人民のための〇〇〇」
- ⑬「巫女」の読みは?
- ⑭碁や将棋で、対戦者の間に置く台
- ⑮新鮮な魚介を使った、南三陸町の名物どんぶりといえば、〇〇〇〇弁
- ⑯宮城県の名産のひとつ、ホタテ。中央には大きな〇〇柱

前回のこたえ

A オ B パ C マ D ツ E リ

でした。

1	テ	ン	ビ	3	キ	4	バ	5	ズ
1			6	ト	リ	7	オ		
8	マ	9	ク		10	キ	モ	ノ	
12	キ	ダ	13	オ	レ	14	ア	ケ	
	リ		15	ヤ	マ	16	デ	ラ	
17	ツ	ジ			18	バ	イ	ク	

編集後記

創業140余年を誇る和田の大豆加工業「菅野食品」がHPを立ち上げました。下処理の工夫やレシピ紹介も楽しめます。http://www.takasago-toufu.co.jp 冷奴がおいしい季節ですね。(芳賀)

連休に墓参りで富山へ。町中には様々な年代の市電が走り回り、水路などの水源も豊富で、瑞々しい景観が印象的でした。また仙台に劣らず緑も多く「杜の都がここにもある」と実感。(おおが)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mmmm.or.jp